

追跡レポート

こないだ聞いたことあるー

どうなったただやあー

(平成21年12月) 定例会一般質問

問 村内体育館の利用時間が、夏と冬では違って、冬の時間が制限されているのはなぜですか。また、ウイング21の休館日(月曜日)は必要でしょうか。

答 夜間使用している団体等にも要望を聞いて、利用時間を検討します。また、休館日についても、利用者の要望や動向をみて検討します。

その後

平成22年4月1日から、ウイング21とトレーニングセンターの冬期間の使用時間を、午後9時30分までに変更しました。また、ウイング21は月曜日も使用できるようにしました。

私の思い出



深空 太田 恭子

戦争と共に学んだ学生時代の一端を思い出として書きたいと思う。昭和11年小学1年の時に支那事变勃発。翌年父は出征。15年一旦復員するも19年再度出征して行った。昭和16年12月8日大東亜戦争勃発。私は小学6年だった。子供心にアメリカと戦争して大丈夫かなと思った。

翌年希望に燃えて入学した女学校も1年の時は英語の勉強も出来たが2年になって敵国の言葉は学ぶ必要なしとの命令で教科書を焼き捨てた。体育の時間には竹やりで教練。テニスコートも鳥川地区の雑木林も自宅から持ち寄った鉄ですべて手作業で開墾、小麦を播いた。雑木は冬のストロブ用に背負って学校まで運んだ。農繁期には出征家庭へ田

植稲刈りの勤勞奉仕。3年の2学期には学徒動員命令で呉羽紡績大町工場へ、寮生活となり10畳位の部屋に5、6名寝泊りし働いた。私は紡績に配属になり「欲しがりません、勝つまでは。」を合言葉に一生涯懸命働いた。食事は大豆さつま芋の入ったご飯、小麦が粒のまま入った麦飯には閉口した。暖房は炬燵のみで寒かった。脚気や大腸炎になる者が続出した。ある日6号室長を先生が呼んでいるというので何ごとかと思いつきながら副室長として行った。室長は当時脚気で帰宅していた。先生の部屋へ入るなり「先生が「おおシラミ室長」と言われ思わず声を殺して号泣した。しばらくして先生は何も言わずに「もういいから帰れ」と云われ部屋に戻ったが泣き止められなかった。同室のみんなが心配してどうしたのと慰めてくれたがシラミを持ち込んだ本人が目前に居るのに何も言えなかった。その後親にも話すこともなく胸の中に閉じこめ60年余が経った。

当時トイレへ入れば毛シラミが這っていて衣シラミも広がっていた。半年を大町で働き翌年4月から豊科工場に移り自宅から通えるようになり嬉しかった。ある日、〇先生が出征するから学校へ集合と言われたがどうしても見送りに行く事が出来なかった。友達に昨日はどうしたのと聞かれ、ほかに用事があったとウソをついてしまった。集合写真には私は居ない。でも写真は買った。工場に退役したような兵隊さんが入って来て軍管轄の毛布を織るとか機械も入れ替えていた。明日は工場休みと急に言われどうしてかなと思った。

そして昭和20年8月15日終戦玉音放送を自宅で聞き真夏の暑い日差しの中、ミンミンぞみが何事もなかったように鳴いていた事が頭をよぎる。その後学校へ戻ったら、体育館は学校工場になっていた。昭和21年3月女学校4年卒業。学徒動員で勉強が出来なかった思いもあり、終戦後1年だけ残っていた専攻科へ親に頼んで行かせてもらい一番楽しい女学校時代だった。